

ぎふ・海へのつながり学び隊 活動報告

山や川と海とのつながりを体感しながら学ぶ「ぎふ・海へのつながり学び隊」（海と日本プロジェクトin岐阜県実行委員会主催）。県内の小学5、6年生21人が、長良川の源流域にあたる郡上市高鷲町の山林から三重県の伊勢湾までを巡って、山や川が海と深く結び付いていることを学んだ。
(取材/野口晃一郎)



山、川、海のとつながりを学んだ参加者=三重県川越町の高松干潟

山

郡上・高鷲

山を育てる

水を育てる

郡上市高鷲町鮎立の山林では「育林家」の山川弘保さんから、海を豊かにするための山の役割、山が海に与える影響などを教わった。山川さんは郡上市民病院で脳神経外科の医師を務める傍ら、約600年にわたる山林を守り続けてきた山川家の26代目として、約170畝の山林を管理している。これまでの山づくりの取り組みが評価され、県農業コンクール最優秀賞、農林水産祭天皇杯などを受賞した。

山川さんは「山を育てることは水を育てること」と話し、「山の保育」の必要性を強調する。若木に日光を当てるために、草刈りや間伐を行い、約50坪のヒノキの苗を植え、持続可能な山づくりを継承している。この山林の特徴の一つは、ヒノキやスギなどの針葉樹だけでなく、ホオノキやヤマザクラ、ナラなどの広葉樹が全体の3割も分布していること。

「山にはさまざまな種類の木々が生育し、水や空気を作り、エネルギーを生み出している。しっかり森を育てなければ、長良川流域で暮らす人がきれいな水を飲めなくなったり、海の生物が減ったりしてしまふ。山づくりは地道な作業だが、山を守

川

清流長良川
あゆパーク

「県魚」の 鮎を守れ!

伊勢湾から鮎が遡上できる北限といわれる郡上市白鳥町。長良川沿いにある「清流長良川あゆパーク」では、鮎について深く知り、川にいる生物の生態調査もした。人と魚が共存する水域環境の保全・復元に関する調査研究などを行っている「県水産研究所」主任専門研究員の森美津雄さんから、長良川の鮎の一生などについて聞いた。

「県魚」である鮎は、スイカのよいうな香りがすることから「香魚」と、一生が1年であることから「年魚」とも呼ばれている。森さんによると、長良川の鮎が秋に産卵する場所は、中下流域の岐阜市。産卵場所は川底が小石となっていて流れのある瀬。石と石の隙間に水が流れ、卵に新鮮な水が供給される環境が必要という。1匹の雌に多くの雄が一緒になつて産卵するのが特徴。卵の大きさは約1ミリの、石にくっ付くためネバネバしている。1匹の雌が生む卵の数は、4万〜5万粒。

産卵から約2週間で生まれた仔魚の大きさは約7ミリ、重さ1ミリ以下。川の流れに乗って伊勢湾まで下って

るといふ「家業」をこれからも継続していきたい」と語った。



上 長良川の支流で行った生物の生態調査

下 塩焼きするための鮎の串打ち体験=いずれも郡上市白鳥町、清流長良川あゆパーク

海

三重・高松干潟

大量プラスチックに 環境問題考える

下流域に位置する三重県川越町の高松干潟は、冬から春にかけて稚鮎が過ごす。ここでは、ボランティア団体「高松干潟を守る会」の協力をを受け、海岸に流れてきたごみを拾い、干潟に生息するアシハラガニな



「ぎふ・海へのつながり学び隊」に参加した児童は、2日間の学習成果をポスターにまとめた。長良川の鮎や高松干潟のカニなどの生物や山林の木々など、印象に残ったことを四つ切サイズの画用紙に描き、自然の大切さを表現した。

ポスターに表現



2日間の学習成果をポスターにまとめた子どもたち=岐阜市橋本町、ぎふチャン

どを観察した。海岸には、環境問題となっているペットボトルなどの海洋プラスチックごみ、台風や大雨で長良川などの河川から流れ着いた大木やヨシなどが打ち上げられていた。中には、ルアーなどの釣り具やライター、洗剤、蛍光灯など、水質悪化に影響を及ぼす可能性の高いごみも見つかった。同会代表の水谷いずみさんは「ごみがあるのは日常茶飯事。どうしてこのような状況になるのか、どこから流れて来るのかを考えるのが大切。ごみを減らすことなどにも意識を高めてほしい」と期待を寄せた。



「山の保育」の必要性を語る育林家の山川弘保さん



若木に日光を当てるため草刈りを体験する子どもたち



「山の保育」のため植えられたヒノキの苗いずれも郡上市高鷲町鮎立

海と日本プロジェクトin岐阜県とは
県や岐阜市、岐阜新聞社、岐阜放送などで行く実行委員会が中心となり、海への関心を高める取り組みを行っている。

清流長良川あゆパークとは
世界農業遺産「清流長良川の鮎」を国内外へ情報発信する拠点として2018年6月にオープン。鮎のつかみ取りや塩焼き体験ができる広場を備え、長良川沿いにある木造平屋の「里川あゆハウス」では、臨場感ある映像を観ながら「清流の長良川の鮎」について学習することができる。



干潟で生息するカニなどの生態を調べる子どもたちいずれも三重県川越町、高松干潟

右上 海岸に打ち上げられたペットボトルなどのごみ

右下 ごみの中にはライターなどの危険物も見つかった

制作したポスターは、10月下旬から長良川鉄道の車内で掲示される予定。